

菊池知学と八事の東海商業学校

——クリスチャン教育者はいかに朝鮮からの留学生を受け入れたか——

澤 田 哲

はじめに

東海商業学校は、一九二四（大正一三）年四月から一九三五（昭和一〇）年三月まで存在し、設立当初を除き、まさに今中央大学が校舎を構える八事の地で教育活動を行った私立学校である。校長かつ実質的な設立者は、菊池知学というクリスチャンの教育者であり、当時の愛知県では唯一、本格的に朝鮮からの留学生を受け入れた中等教育学校であつた。

本稿は、菊池知学の経歴と、東海商業学校の設立から廃校までの経緯を追いながら、この学校が朝鮮からの留学生を多く受け入れた理由について考察することを目的としている。

方法としては、統計資料、キリスト教関係の資料、当時の新聞広告、学校日より、菊池知学の孫である千尋氏等への聞き取り、千尋氏所有の知学の履歴書や戸籍等の分析によつた。商業学校が翻弄された当時の経済状況と、彼独特の理想による学校経営の行き着く先が朝鮮からの留学生の受け入れであつたことを示す。

戦前の朝鮮留学生受け入れについては既に多くの研究がなされているが、中等教育機関におけるそれについては緒に就いたばかりである¹⁾。東海商業学校については留学生受け入れの例として佐藤由美が開校から閉校までの留学生数と入学者や退学者との関連を考察しているが、この学校の経緯や教育内容全体に踏み込んだ研究としては、商業教育の分野から

もまだなされていない。そもそも、大正から昭和にかけてのわずか十年ほどの間存在しただけの学校である。ほぼ同じ頃に誕生した中京商業学校や東邦商業学校（ともに一九二三年設立）などのように、社会の変動を乗り切つて存続発展することができず、そのため学校誌の類いも残せなかつた。また、この学校とほぼ同時期に生まれて消えた私立商業学校は愛知県内に複数存在し、注目する理由も特に見いだされなかつた。しかし今、「朝鮮留學生の受け入れ」という観点から、この学校を発掘する意義が生じている。菊池知学の目指した理想や、設立から廃校までの経緯をたどりつつ、その理由を明らかにする。

一 大正期から昭和初期の愛知県内商業学校

第一次世界大戦は、戦争の埒外にあつた日本経済にかつてない繁栄をもたらした。全国的に商業学校の新設がさかんに行われ、一九二二（大正元）年の甲種六九校、乙種二六校に対して、一九二二年には甲種一一八校、乙種三九校と激増した²。また一九二二年に商業学校規程の改正で女子商業学校

の制度や夜間商業学校制度が確立され、甲種乙種の差別的な称も廃止されたことに加え、一九二四年には実業学校卒業者を中学校卒業と同等以上にみなす文部省告示が出された。すべての専門学校への進学が認められたこともあつて、大正時代はまさに「商業教育の黄金時代であつた³」。

愛知県の場合、全国と同様大正時代に設立が進んだが、特に一九二二年の商業学校規程改正以降私立学校の増設傾向が著しく、一九二六年時点での県内の私立商業学校一三校のうち、一〇校がそれまでの五年間に設立されている⁴。

昭和に入つた我が国では、世界的不況による「卒業生の就職難は學生の肝を寒からしめ」た。しかし「幸いなことに、わが中等商業学校においては、全国を見渡して学級減や生徒募集の減少は多少目立つたが、就職難もさして苦にはならなかつた⁵」という。しかし数年で学校数を急増させていた愛知県では、不況期と官公立商業学校の定員増が重なつたこともあり、私立商業学校は深刻な打撃を受けた。早くも一九二七（昭和二）年の時点で、「試験地獄を裏切つて私立学校の経営難時代」との題で『名古屋新聞』が次のように報道している。

さていよ／＼新学期のふたをあけて見ると皮肉にも、私立校は一般に入学者少く、県下全帯にわたり収容定員をこゆるものほとんどないといふ奇現象を見せてある、之ら学校経営者は或は教育上如何と思はれる様な手段まで講じ入学勧誘に狂奔したのであるが到底及ばぬと見て、中でも私立商業並に女学校の如きは一般に／生徒数激減し、その結果或は学級数を減じ、或は教員をかく首するの狀態に陥り存廢の岐路にさへ立つ苦境のものまで出てゐる、市内一二の私立商業学校の如きは、二月初頭より種々の方法にて、兩三度も生徒募集を行ひ極力生徒吸収に力めたといふし某校の如きはわずかに四名を得たるのみにて授業にすら支障を来してゐる、右につき県教育当局では語る／私立学校特に商業学校、女学校等の入学生徒の減少は、いろいろの原因もあらうが、第一は通学距離の問題、第二には同業学校の多すぎる事、第三は、歴史あり内容ある官公立学校を志望して、私立学校を忌避する趨勢等いろ／＼挙げられませう／何とか対策を講ぜねばならぬと思ひますが何しろ、好況時代に出来た学校ですから当時は経営難もなかつたが此頃の不景気では

何事に依らずうまく行かぬのでせう、云々。⁶⁾

やがて、東海商業学校（一九二四—三三年度）のほかにも尾張商業学校（名古屋高等商業学校に併設、一九二三—三一年度）豊橋商業学校（県立豊橋商業高等学校の前身の一つ、一九〇六—一九三二年度）などが廃校となつた。

愛知県における私立商業学校は、大戦景気に湧いた大正時代に急増し、急転直下恐慌に見舞われた昭和の初期に苦境に陥り、中には廃校になる学校まで現れたのである。

一一 菊池知学の生涯

菊池知学は、一八七五（明治八）年に弘前の菊池如心（によしん）の長男として生まれた⁷⁾。七歳で父親を亡くし、伯父であつた同じ弘前の菊池九郎（一八四七—一九二六）に引き取られて実子同然に育てられ⁸⁾、一八八九年から四年間東奥義塾に学んだ⁹⁾。あと一八九三年青山学院高等学部に入學、四年後の一八九七年に卒業した¹⁰⁾。

菊池九郎は弘前藩士の家系に生まれ、戊辰戦争ではほぼ同年の藩士本多庸一らとともに脱藩し、鶴岡（庄内）藩の下、

新政府軍と戦った。その後慶應義塾、また鹿児島島の英学校や兵学校で学び、帰郷後の一八七二年東奥義塾を設立した。自由民権運動を推し進めるために、本多とともに共同会を組織して、国会開設運動などを進め、『東奥日報』を創刊して社長となった。一八八九年弘前市長、第一回総選挙以来九回連続で衆議院議員に当選、一八九七年には山形県知事となっている。

東奥義塾は、地方の人民の手による、「一の新人物養生場を創始せざるべからずと」¹¹⁾有志とともに旧藩主の賛助を得て設立したもので、九郎も「世界の智識の門戸ともいふべき英語を我が国民に教授せる点に於て、慶應義塾に次で最も古るき歴史を有する」¹²⁾と自賛している。

九郎は一足先にメソジスト派のキリスト教に入信していた本多庸一を塾長に招いた。一八七四年に東奥義塾に赴任した同じメソジスト派のジョン・イングが、英語などを教えながら本多とともに伝道を始め、弘前教会を設立した。一八七七年、西南戦争に出征することになった九郎は、その前日に入信した¹³⁾。本多は、その後青山学院の第二代院長となる。なお、九郎の義甥である山田良政・純三郎兄弟は東奥義塾で

菊池知学 略年表

| | |
|--------|--------------------|
| 一八七五・六 | 弘前に生誕 |
| 一八八二・九 | 父死亡 菊池九郎宅に引き取られる |
| 一八八九・九 | 東奥義塾(〜九三・六) |
| 一八九三・九 | 青山学院高等学部(〜九七・七) |
| 一九九二 | 前橋中学校教諭心得(〜一九〇一・四) |
| 一九〇一・四 | ※愛知県名古屋商業学校教諭 |
| 一九〇二・一 | 一〇名の同志と名古屋YMCA設立 |
| 一九〇二・六 | 浅野鈴江と結婚 |
| 一九〇二・八 | 名古屋中央教会に正式に転会 |
| 一九〇六・四 | この年から日曜学校の教師 やがて校長 |
| 一九一七・六 | 名古屋YMCA副会長(〜〇八・二) |
| 一九二四・三 | 名古屋市立名古屋商業学校退職 |
| 一九二五 | ※東海商業学校設立 学校長兼教員 |
| 一九三二・三 | YMCA所管の名古屋青年学院長 |
| 一九三二・三 | 東海商業学校長退職 |
| 一九三二・四 | 清流幼稚園長 |
| 一九三五・三 | 東海商業学校を教員として退職 |
| 一九四二・四 | ※清流幼稚園長退職 |
| 一九五一・六 | 他界 |

愛知県名古屋商業学校は1901年6月に市立名古屋商業学校と改称。
東海商業学校設立月は知学自身による履歴書の日付(3月31日)から。
清流幼稚園長は1942年4月1日に次期園長と交替した。

学び、やがて孫文の支援者となった。その縁からか、知学も孫文から「博愛」との額を受領している¹⁴。

知学は東奥義塾在塾中の一八九一年に受洗した¹⁵。青山学院を卒業後、前橋中学校の教諭心得を二年務めたあと、一九〇一年に名古屋市立の名古屋商業学校に英語教諭として赴任、一九一七（大正六）年に至るまで勤務した。赴任の翌年には弘前教会から日本メソヂスト名古屋中央教会に転会し¹⁶、教会に顔を出して直ぐに日曜学校の教師となり、以後一七年間教師あるいは校長を務めた¹⁷。やはり赴任の翌年である一九〇二年、中央教会経営の清流女学校を卒業していた¹⁸浅野鈴枝と結婚した。

名古屋に赴任した一九〇一年の一月、彼は日本YMCA全国協議会の後に東京で行われたジョン・アール・モットの学生伝道に参加した。モットの呼びかけにインスピレーションを得、翌年一月に彼を含むキリスト教関係者ら十一人が発起人となって名古屋基督教青年会（名古屋YMCA）を設立し、丸山應（名古屋英和学校（名古屋学院大学、名古屋中・高等学校の前身）校長）三浦泰一郎（名古屋清流女学校に牧師として関係）とともに幹事となった¹⁹。最初の青年会の事

務所は富士塚町三丁目の知学宅におかれた。

その後も彼は「長く名古屋YMCAをになって立つた

YMCAを根城として、名古屋における宗教、文化、思想、教育、語学方面にその才幹を奮った。そのほか日本YMCA同盟の委員として全国的な諸会合にもたびたび出席し²⁰」た。一九〇六年から二年間は、名古屋YMCAの副会長（当時會長不在）であった。学校勤務の余暇のすべてをささげ、同盟から送ってきた主事手当のすべてを会の運営のため投じていたという。特に英語教育に関しては、一九〇二年に知学を含む数人で始めた久屋英語夜学会が改称や他会との合流を経てYMCA所管の中央英語学校となり、こうした夜学会や学校で教え続けた。最終的にはさらに一九二五年に名称変更された名古屋青年学院の院長となっている。

一九二二年五月に名古屋キリスト教青年会新会館建設案が発表された。一時関東大震災もあり、建設は難航したが、愛知県知事、名古屋市長をはじめとした有力者の顧問就任、名古屋財界の援助等もあり、募金額の八割以上がノンクリスチャンからという広範な寄付を得て、一九二四年一二月に新会館が落成した。知学はこの後援会実行委員会における副理事長

であった。この年が東海商業学校設立の年である。さらに翌年には財団法人名古屋基督教青年会拡張計画が発表され、彼は六人の財団理事の一人となった。

知学は学生YMCA運動を起こした一人であったが、昭和に入ると、世界恐慌による経済不況や満州事変などの軍事ファシズムの波が襲う中、「救いの社会化」を唱えるS・C・M運動が名古屋市の学生YMCAにも押し寄せた。マルクス主義の影響が色濃く、実際左翼運動に向かう者も出て、国内で多くの所属学生が逮捕された。一九三一（昭和六）年一月二二、二三日の基督教青年会臨時全国協議会では、「YMCAの使命問題」「YMCAと社会問題」「YMCAと国際問題」「YMCAの将来方針問題」が討議され、知学は国際問題分科会の議長にあたった²¹。当時日本基督教連盟は言葉を選びながらも満州事変の「発生を遺憾と」する声明書を出している²²が、分科会でも話題とされ議論が白熱化した²³。左右ともに先鋭化していく社会の中でYMCAが今までどおりのある意味暢気な活動に終始していいのか、この頃の知学も彼なりの観点から心を痛めたようである。一九三五年、「開拓者」に寄せた「市青年会がなすべき今後の任務」と題した文の中

で、彼は「市青年会　は行詰つて居る。　その為に悩んで居ることを告白したい。　YMCA全体として見て、青年の問題を根本から解決すべき組織的の運動たるにどれ程の意義があるであらうか。　青年会事業の対象である中小の商業家の子弟は、今や前は産業組合の所謂五ヶ年計画により積極的な進出に対して後には大資本家の大規模生産の挾撃を受けて『喰ふか喰はれるか』の危機に立つて居る時に、今までのやうな仕事だけでよいか。』と述べている。

一方、名古屋中央教会では、東海商業学校の校長職を降りて一教員となった年である一九三二年の四月から一九四二年四月までの一〇年間、清流幼稚園長を務めた²⁵。清流幼稚園は最初清流女学校（財政難から一九二〇年に廃校）付属であったが、久屋の中央教会内に移り、毎年五〇名前後の幼児を安定して預かっていた²⁶。同じ頃、教会の日曜学校の校長も務めている²⁷。

知学夫婦のもうけた四男二女のうち男子はすべてミッシェン系の名古屋中学校を卒業した²⁸。長男武信は愛知学芸大学の教授として英文学を教えた。一九五一年、七六歳で他界、その一〇年後に鈴枝も他界した²⁹。

菊池知学は、養育者である伯父菊池九郎の影響の下、Y M C A の設立と経営、名古屋中央教会の運営に関わり、名古屋商業学校教員、東海商業学校長、清流幼稚園長などを務めた、情熱的なクリスチャンであり教育者であった。

二 東海商業学校と朝鮮からの留学生

東海商業学校は、菊池知学によって一九二四（大正一三）年に設立された。四月七日付官報には、次のようにある。

文部省告示第二百十一号

商業学校規程ニ依リ左記実業学校ヲ設置シ大正十三年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

大正十三年四月七日 文部大臣 江木 千之

名称 東海商業学校

位置 愛知県名古屋市東区千種町

設立者 愛知県名古屋市東区葵町原口晃外四名

入学資格 尋常小学校卒業程度

修業年限 五年

また、四月八日付『名古屋新聞』三面は、「東海商業認可」

との題で、次のような記事を載せている。

名古屋市に東海商業学校設置の件本月三日付文部大臣の認可があつた右は菊池知学氏の経営せる商業専修学校を改造して五学年制の甲種商業とするのであるが近来名古屋に私立学校濫設の弊あるに對して文部当局も認可を躊躇したが市長知事の稟申に基き同校の実質主義を認め認可したのである

この二資料からわかることとして、設立時の特色四点をあげておく。設立者は実質的に菊池知学であるが正式書面では別の人物があげられていること 知学が経営していた商業専修学校の改造という形であること 既に濫設の弊が認識されながら市長や知事の名による稟申によって認可されたこと 「実質主義」の特色をもつとされたこと。 については、一九一七年に名古屋商業学校を退職しており、一九二八年に頒布したパンフレット「東海奨学講設立の趣意」³⁰において知学自身がこの学校を「今から十年前に私の独力創立したものの」としていることなどから、退職後すぐに前身の学校を設立したと推測できる。

彼はなぜ商業学校の設立を決意したのか。名古屋商業学校

の教員として既に商業教育に関わってきたことに加え、前述のとおり彼自身が中小の商工業者の子弟を重要なYMCAの事業対象と考えていた。元来、YMCAは産業革命期のロンドンで商業等に携わる若者の健全育成のために創始された組織であり、日本では行政に先駆けて職業紹介所を設立している。後援者に実業家が多かつたことも関連して、青年の職業教育は彼の中で重要性を帯びていたといえよう。

この記事に先立って、募集上やむを得なかつたからか、認可前であるはずの三月二十五日、『名古屋新聞』一面に次のような広告が載せられている。

入学資格一学年は尋小卒業無試験二学年は高小一年修了
三、四学年補欠若干名
文部省認可五年制 東海商業学校 専修商業学校改称
最新式設計の校舎八月中に落成仮校舎名古屋市東区新出
来町（電話東四一〇一番）

先の二資料の情報に加えて、無試験で入学を認めること（常に広告にこれに類する文言が載せられており、中等教育学校の入学試験における競争の激しさが新聞を賑わせている^③）中、この学校のうたい文句であつた）当初から校舎の

新築を考えていたことがわかる。この広告は新築についても勇み足だったようで、同年二月十八日の官報に至って「愛知県名古屋市東区千種町^④二設置セル東海商業学校ノ位置ヲ同市中区広路町ニ変更ノ件認可セリ」と告示された。

その後の東海商業学校に関しては、『名古屋新聞』や『新愛知』の入学準備欄や広告欄などから知られる。

一九二五年二月一六日『名古屋新聞』三面の広告は次のようである。

（文部大臣認定、五ヶ年制、学校名、住所を示した後）
入学心得^⑤ 入学試験廃止 募集人員一学年百名二学年以上若干名願書提出三月廿八日限り新校舎 目下建築中
営繕課技師の考案に成る新式的设计 敷地実に五千余坪
日当りのよき丘の上にある南に熱田の海を望み西と北は
緑林を背景とし 別にグラウンドあり池あり健康^⑥と勉学の
地として中京第一也ノ実質主義の教育 多数主義を排し
一室の人員五十名限り一人一人に手の廻る教育を施し
以て実力あり且特色ある青年の養成を期す（その後校種
間の接続について図示）

この広告からは、に関して、「実質主義」が生徒一人一

人に対して手をかける少人数教育を意味していたことがわかる。また、に関して、一年たつても新校舎が建設されなかつたこともわかる。八月二〇日付『名古屋新聞』二面に「新校舎落成に付各学年生補欠募集 名古屋市中区広路町石阪」

八事電車終点に新築中の本校舎落成本月三十一日移転可仕候に付此段謹告仕候」との東海商業学校の広告があり、八月に至つて落

成したことが確認できる。



陸地測量部『二万五千分一地形図名古屋近傍九号名古屋二号名古屋南部ノ一』1932、より、縮尺は不同。

「商業校」と記されたものが東海商業学校を指すとすれば、それはまさに現在の中京大学の位置に重なる。

前掲の「東海授学講設立の趣意」で、知学は次のように語っている。

環境が教育の大切な役割をつとむる事は申すまでもありません、時には教師よりも周囲の影響の強い場合が往々にしてあります、一昨々年東海商業学校の校舎を新築するに際して、拾万坪の私設公園ともいふべき八事興正寺の地内を拵んだのは、学生をして市街地の喧噪を離れ蒼天緑樹の間に静かに学ばせ大に遊ばせたいと思つたからで、私の畢生の願たる理想の私立学校を大成する第一歩でありました、

つまり、自らもつ理想の教育を実現するためにこの学校を建てたのであり、そのためには八事の環境こそが重要だといふのである。

一九二六年二月一三日付『名古屋新聞』五面の入学準備欄は東海商業学校を特集している。「特色ある教育方針の東海商業学校」として、次のような記事を載せている。

特色ある教育 簿記や算盤は小僧さんにも出来る教科書

を勉強させる文で人が出来ると思つて居る処に飛んでもない錯誤がある同校は天空開濶の自然の裡に強壯な青年を育て上げる為に先づ八事の丘に校舎を建てた、更に同校人格主義教育の基調として安心して金庫の鍵を預けられる「信頼すべき心」と世間が学校出に最も要求する「喜んで働く精神」の養成の為に色々な施設をする所に同校教育の特色がある商業実習の為に毎年夏季外人の避暑地たる信州軽井沢に催す「名古屋物産マーケット」は如上の施設の一である、小使や給仕の仕事を生徒がしてゐるのも其一である／**堅実なる基礎**同校には名古屋市の実業界に重きをなす人々が或は設立者となり或は評議員となつて居る卒業生の就職の上から云つても学校の将来から云つても之は同校の大なる強みである新校舎の建築費五万五千円が悉く市内有志者の義捐になつた一事は同校の信用を裏書する同校は遠からず財団法人の申請を為し公共の教育機関として名古屋市民に提供せられると同校の当局者が云つて居る／**一年中の林間学校**昨年来竣成した新校舎は私立学校としては異彩を放つ建築で殊に八事電車終点の丘上松林蔚然の間にある五千坪の敷地

はオゾンを含む大気が飽くまで澄み渡り誠に絶好の教育地である現に生徒の血色が目に見えて好くなつたといふ事実丈でも一ヶ月二円三銭の尾電々車賃は甚だ安い（このあとに生徒募集、入学試験を廃止し成績証明と人物試験だけで入学を許可することなどが記されている）

この記事から、まず の実質主義のさらに具体的内容が理解できる。人格主義教育であり、「信頼すべき心」や「喜んで働く精神」を育てようというのである。また、 に関して、設立者が「名古屋の実業界に重きをなす人」であることがわかる。前述の一九二四年四月七日付官報における「原口晃」は名古屋市に設立された日本車輛製造の取締役兼支配人であった³³。やはり前述した名古屋基督教青年会拡張計画発表の折、財団法人名古屋基督教青年会の評議員となつている³⁴。この評議員には当時の名古屋財界の名だたるメンバーが連なつており、知学はYMCAの新会館建設や拡張計画に関わる中で財界人と交友を広げていったようである。またこの財団法人には、新会館建設と同様、山脇春樹愛知県知事や田阪千助名古屋市長も顧問として関わっているため、やはり交友関係が推測される。 の「稟申」に大いに助力となつたであろう。

一九二七（昭和二）年三月三日五面、一九三一年二月二七日五面、一九三三年二月八日三面の『名古屋新聞』にも同様に紙幅をとった入学準備のための記事がみられる。このうち前者からはそれ以後の動きがわかる。

一九二七年の紹介記事では、「成るべく少い生徒に手の廻る教育を施して其特長を伸ばし他に夫によつて世に立つ様にする良質主義」を第一、身体の健全にとつて運動と同様大切な「野外の日光と空気と蔚蒼たる樹木」に眺え向けの「興正寺の地内の丘の上」にあり「近頃父兄の心配の種になつて居るカフエー其他の誘惑の場所がない」環境のよさを第二、軽井沢のマーケット実習、小使や給仕のほかに、「体操の代りに溝浚ひや道路の改修などをさせる」「勤労主義教育」を第三の特色とした。さらに「有力なる実業家の後援」があることや「菊池校長は多年商業教育に関係し実業界に知己が多い」ことから就職についての信用が極めて厚いこと、教師の手が届くように一五人を定員とする寄宿舎を四月から遠来者の為に設けることなどを付け加えている。

つまり、に関連した「良質主義」との表現や、溝浚ひや道路改修などもさせる「勤労主義教育」、に関連したこれ

までどおりの環境面の強調に加え、寄宿舎の設置という特色が加わることになったのである。

一九三一年の記事は、「独自の面目に生きる東海商業学校」という題で校長知学自身を報じている。

生徒争奪——野球——等々の噂をよそにして、塵埃と喧噪の街を離れた別天地に飽までも独自の面目に生きて居るのは校長の菊池知学氏だ、菊池さんは忙しい身体を我から一週廿四時間の授業を受持ち、一団の首領の様に其中心に立つて生徒達の元気を鼓舞作興して居る。

（単に就職させるだけでなく、十数年前設立まもなくから街頭に乗り出し北海道、東京、夏の軽井沢などで実習している 卒業後二十年で三分の一が病死した学校があるが、）かうした事実で戦慄して天空開濶の八事に学校を建てたのは今の校長さんだ。「中学生時代は放し飼ひに限りますよ」と校長さんはニコ／＼してゐる。

そして、昨年授業料を下げて今年を受験料をやめたため月五円八十銭しかかからず、寄宿舎は自炊当番制度により月十円で済むとして、低廉な学費との特色もつた。その他

作業教育として、玄関前の植え込みを生徒達が作り、自動車の運転などの作業プログラムにより全人教育主義の一端を表現しようとしているなどが述べられている。

人格主義教育は新渡戸稲造を連想させるし、労作教育は新教育運動で唱えられていたが、今のところそのような教育理論に知学が触れていた形跡はみられない。むしろ「少人数教育は一人一人を大切に育てることができる」ということを別の言葉に置き換えただけなのかもしれない。また、学費を低廉にした分生徒が学校の維持のために活動することにしたというようにもとれる。ただ、YMCAの影響も感じさせる、全人的成長を目指す活動に比重を置いた教育を意識的に行っていたということとは間違いない。

無試験、低廉な学費、豊かな環境、特色ある教育をつたっていたにも関わらず、募集難は設立早々に始まっていた。

一九二七年一月五日付で発行された『東商学報第三号』に、知学自身が「二人一人運動」という題で寄稿している。

「君の学校では生徒の募集に着手しましたか」

「インエマです」

「遅いですね、もう他の学校では盛にやっておりますよ」

| | 年度 | 1924 | 1925 | 1926 | 1927 | 1928 | 1929 | 1930 | 1931 | 1932 | 1933 | 1934 |
|----------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 在籍 | 1年 | 16 | 11 | 18 | 10 | 15 | 43 | 18 | 7 | 12 | 22 | 3 |
| | 2年 | 53 | 26 | 31 | 19 | 17 | 20 | 33 | 9 | 14 | 14 | 2 |
| | 3年 | | 63 | 30 | 28 | 27 | 25 | 25 | 10 | 19 | 19 | 10 |
| | 4年 | | | 50 | 37 | 30 | 33 | 27 | 20 | 15 | 15 | 13 |
| | 5年 | | | | 51 | 43 | 41 | 58 | 65 | 77 | 34 | 47 |
| | 計 | 69 | 100 | 129 | 145 | 132 | 162 | 161 | 111 | 137 | 104 | 75 |
| 入学 | 尋常小卒 | 17 | 40 | 18 | 10 | 15 | 21 | 10 | 14 | 47 | 33 | 12 |
| | 高等小1年修了 | | | | | | 22 | 6 | | | | |
| | 高等小2年修了 | 1 | | | | | | 5 | | | | |
| | その他 | 3 | | | | | | | | | | |
| | 入学志願者 | 53 | 75 | 18 | 40 | 42 | 70 | 70 | 41 | 53 | 122 | 12 |
| | 第一学年入学 | 21 | 40 | 18 | 10 | 15 | 43 | 21 | 14 | 47 | 33 | 12 |
| 第二学年以上入学 | | | | | 45 | 34 | 53 | 80 | 183 | 86 | 57 | |
| 退学 | 退学 | 8 | 39 | 40 | 31 | 4 | 8 | 38 | 77 | 141 | 75 | 64 |
| | うち転学 | 0 | 8 | 12 | 13 | 0 | 0 | 0 | 24 | 8 | 35 | 19 |
| 在籍朝鮮生徒 | | | | 2 | 3 | 3 | 10 | 資料なし | 32 | 93 | 85 | 50 |

表 東海商業学校の在籍、入学、退学及び在籍朝鮮生徒の統計『愛知県統計書』及び佐藤由美『平成26年度～平成29年度科学研究費助成事業（基盤研究（C））研究成果報告資料』より筆者作成。1927年以降の「入学志願者」欄は「第一学年入学志願者」。

某新聞社の人とかうした問答をしたのは今秋十月の末の事であつた。所謂生徒争奪の運動はその頃既に始まつてゐたのである。紡績の女工募集のように今年も「外交員」が活躍するであらう、他校の中傷をすらすらするであらう、新聞紙が指摘したやうな醜悪な方法が行はれるであらう。墮落せる名古屋の教育界よ。けれどもそれは吾等の関する所ではない。／＼吾等には吾等の行くべき途がある。果然！五年生先づ唱へ四年以下之に和して「一人一人運動」はその第一声を校内に挙げた、「一人一人運動」とは一人の生徒が一人の入学志願者を学校に誘致する為の活動である。

これに続いて、この運動が自校の誇りであり、将来商店に入ればその柱石になり成功者になると讃えつつ、最後には先輩同窓の諸君への協力を呼びかける文で締め括つているが、この記事は、募集に苦しむ状況を暗に示している。さらに「校友会に臨みて」という卒業生安立代二の寄稿は直接的である。「中、心である恩師菊池先生の専心誠意な教育状態、尊い精神教育を真向に振りかざして、内容の充実に、人格の完成に没我的の不断的の努力に対して私は感謝の言葉がありませ

ん、然し乍ら現実の社会は此の菊池先生の奮闘の一片さへを容易に認めず時には冷眼と、嘲笑其の策時代的ならざると聞く時、私は同時に悲哀と憤怒を感じるのです。」として、「学校の内容の如何、教育方針の如何等には一向頓着なく人氣と宣伝政策に卓絶した学校にその子弟を学ばしめる現代の潮流」にも憤りをぶつけている。實際この年の入学者はわずか一人であつた。豊かな環境や作業教育は、観点を変えれば都会と遊びを好む若者に敬遠される条件となり得る。さらに新聞紙上で再三非難されたやうな戦略³⁶を敢えてとらない知学独特の生徒募集があつたわけで、彼の描いた理想はなかなか日の目を見なかつたのである。

表からは、募集難が見て取れる。尋常小学校卒業生の受け入れが他の商業学校に比べてはかばかしくない³⁶。その結果編入生をかなり受け入れることになつたと考えられる³⁷。

しかし、無試験で、しかも編入を許容するとなつたときに十分に危惧され得たはずの事件が、一九三一年五月に起きる。東京の千代田商科学校の関係者からの依頼により、東海商業学校英語教師木田八十吉が、その年の三月五年編入試験をやつたこととして通学しない生徒五名に卒業証明書及び卒業証書

を与え報酬を得たとして、愛知県刑事課に取り調べられたのである³⁸。木田教諭は退職するとともに金銭授受以外の事実を認め、校長の指示であるとの声明書を出した。知学は校長として刑事課に「証書を買ったんぢやない、四月の新学期から通学するはずだから授業料を前納させただけのものである」と述べた。書類をまとめて警視庁へ送った後、刑事課長が談話で「犯罪としては別だが教育上からみて大きな何物かがある」と述べたことや、年度未までの校長在任を含むその後の彼の経歴から推測して、立件はされなかったのだろうが、事件の重大さからか、知学はこの年度をもって校長を降り、一教員となった。一九三二年春の新聞上の募集広告は四月一、二日、第二学年以上若干名を「随時考查ノ上編入ス」とした補欠募集³⁹しか発見できない。

朝鮮からの留学生については、東海商業学校設立程なくして受け入れはじめた。表を見ると、編入の形で受け入れた者が多数いたと考えなければ数字が合わない。在籍朝鮮生徒が一桁から二桁へ、さらに三桁に届こうとする勢いだっただけが、当時愛知県においても、東海三県においても、記録⁴⁰を見る限り、高等教育まで含めて、他校で年度当たり二桁の在

籍を示すものすらない。それほど突出しているのである。最後の三年間は、七、八割が朝鮮からの留学生だったことになる。

一九三一年三月に五回、四月に四回『朝鮮新聞』⁴¹に確認できるものが朝鮮において現在たどれる最も古い広告である。以下は四月四日三面のものである。

(入学難者の大福音) 特に不運にある向学烈者を同情す
朝鮮留学生多数在学 (詳細は照会)

文部大臣陸軍大臣認定甲種五年制東海商業学校名古屋市中区広路町翠ヶ丘

●特典卒業生は判任文官資格を得る⁴² 卒業就職紹介
入学資格は実力に応じて各相当学年に無試験編入す
●学費諸学校中最低廉 (寄宿舎費其他学費総計一ヶ月約拾六円)

甲 詳細は下記にて承合されたし 府内苑洞十二番地 李載

既にこの時点で「朝鮮留学生多数在学」とある。「不運にある向学烈者を同情す」とし、無試験編入、学費が低廉であること、寄宿舎があることなど、この学校の特色がこころも

うたわれ、これらは留学を志す者の誘因となつたはずである。同年五月には東海商業朝鮮留學生同窓会が結成されていることから、既に卒業生も出ていることがわかる⁴³⁾。

一九三二年春は朝鮮の新聞にも広告が発見できないが、三月一日には京城で同窓会が行われ、知学も校長として参席と報道されている⁴⁴⁾。

翌三三年三月には、少なくとも二二回『京城日報』⁴⁵⁾に広告を出している。また三月二四日の同紙三面は、「東海商業学校の秀才教育」と題して次のような記事を載せている⁴⁶⁾。

名古屋市の東海商業学校には現在百数十名の朝鮮留學生在学中である／同市は全国に稀なる物価安の地なる上同校にては朝鮮留學生勉学の樂園を建設せんとの趣意より学費を極度に低下して学習の便を計りつゝあり、本年の募集期に際しては職員二名来鮮して四月二日午前九時より京城水標町朝鮮教育協会に於て入学審査を行ひ、同日午後一時より秀才選抜審査を行ふて、優秀者十五名に在学中無月謝の特典を与るといふ

さらにこの年『東海商業留學生学友会会報』が発行される⁴⁷⁾など、朝鮮における東海商業学校関係の活動は活発であつ

た。一九三四年には、任龍吉が東海商業学校教員であつた⁴⁸⁾。

なぜ東海商業学校は朝鮮からの留學生の募集に舵を切つたのだろうか。筆者は「不運にある向学烈者を同情す」の広告の文言に鍵があるように思う。知学にとつては、募集難の中で何とか生徒を獲得したいという思いと、自ら掲げた無試験、学費低廉、環境、実質主義といった理想との接点にこの「不運にある向学烈者」があつたのではないか。そして英語教育やYMCA活動に携わる中で目を外に向けた機会もあつた彼が、朝鮮に注目したとしても不思議ではない。

しかし、再び一九三〇年代の東海商業学校全体に目を転じてみると、在校生の状況は明らかにバランスを失つていた。表にあるとおり、五年生の在籍数ばかりが増加し、しかも退学者数は三桁にまで達していた。在学者に対する割合からみると他の県内商業学校と比べても異常である。さらに留學生四五名が教師排斥等を訴えて「罷休」し、一九三三年一月二日に配属将校の斡旋で解決した⁴⁹⁾。一九三四年春には、地元新聞にも、朝鮮の新聞にも、生徒募集の広告は発見できない。

一九三五年四月一〇日付の官報に、三月三十一日に廃止する

ことを前日に認可したとの文部省告示が載せられている。朝鮮留學生の「罷休」以来、健全化への方途はもはや出口を失っていたのかも知れないが、直接の原因はわからない。大量の退學者により学校の経営が不可能になったのか、行政側から示唆なり指示なりがあつたのか、内務省がかなり朝鮮からの學生を注視していたことの影響も気になる。

東海商業学校は、菊池知学がYMCAで培つた人脈の支援を得て、彼の理想とした商業教育を実施すべく八事の地に建てた学校であるが、景気の激変の中、早くから募集に苦しみ、理想と現実との接点に朝鮮からの留學生の募集を見出した。しかし生徒の無試験による編入まで認めたことは、安易な入退學を許すことにもつながり、次第に学校経営の健全さを失つていき、設立後約十年で廃校となった。

おわりに

菊池知学は、自由民権運動出身の政治家、教育者、かつメソジスト系クリスチャンである伯父菊池九郎に多大な影響を受け、東奥義塾から青山学院へと進み、英語教師の道を選ん

だ同じクリスチャンであつた。教会やYMCAの活動を続けながら、そこで培つた政財界とのつながりを頼りに、理想の商業教育を行うべく東海商業学校を設立し、他の活動同様、情熱をもって八事の地でこの特色ある学校を運営した。しかし、彼としての理想にこだわつた生徒募集は困難を極め、その中で、「不運にある向学烈者を同情す」として多くの朝鮮からの留學生を受け入れた。

知学の東海商業学校における経営、そして朝鮮からの留學生の受け入れは何の功績も残さなかつた、と言つていいのだろうか。

宋基哲は東海商業学校を卒業し、やがて仁川で百万醬油醸造場を経営した⁵⁰。その後の経歴まで発見できたのはその一例のみであつたが、知学の目指した中小の商工業の柱石となつた人物の一人ではあつた。また京城で同窓会が開かれたのは、学校への寄付を集める目的もあつただろうが、それだけの教育をしてきた証でもある。

先の『東商学報第三号』への安立代二の寄稿には、「吾が母校、東海商業学校が正しく此の尊い精神教育に始終一貫し、その清き流れは容易に発見されるであらうと信ずる、吾が母

校の誉れも輝も、存在の価値も総ては此の主義の中に燦として輝いて居るのだ」という一節がある。学校経営は卒業生が懐かしむほど単純ではなかったのだから、それでも新聞の広告などで語られている理想があながち架空のもでもなかったことを示してもいい。そのようにして朝鮮からの留学生を受け入れた学校が名古屋に存在したことは、十分注目する価値があると思う。

当時の朝鮮の新聞には、日本の中等教育学校からの募集広告などがいくつみられるが、本稿は東海商業学校に絞ったため、触れられなかった。しかしその紙面等を入口として諸学校の特色を探ることで、中等教育学校における朝鮮からの留学生受け入れの全体像にまた一歩近づけることができるかもしれない。当時内務省警保局は、様々な不正渡航の方法がある中で、「学生生徒の在学証明書不正使用に依る渡航者」が著しく増加しているとし、その偽造とともに「内地私立中等学校が経営難打開策として、新学期は勿論随時鮮内より鮮人学生生徒を募集し、入学科、考査料若くは月謝等所定の料金を納付するに於ては、全然身元、学歴学力等を銓衡調査することなく直に入学を許可し、在学証明書、鉄道割引券等を発

給交付しつづつあるを利用するもの等⁵¹⁾」があるとしている。このことから中等教育学校による朝鮮での生徒募集が少なからずあったことがわかる。一方で京都にある両洋中学の朝鮮留学生が光州学生事件による犠牲者收容の目的で募集され、その親睦会に労働組合との連絡を保持しているものがあるとして警保局に注視される⁵²⁾など、中等教育学校にあっても留学生の動向は厳しく監視されていた。こうした状況の中で朝鮮からの留学生募集に踏み切るといっぎりぎりの選択には、それなりの理由があるはずである。本稿で完全に迫れたかどうかは心許ないが、ケーススタディを積み重ねることによって見えてくるものがあると思う。

【注】

- (一) これに関しては、佐藤由美が、大正末期から昭和初期までの朝鮮留学生受け入れについて『平成26年度・平成29年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))研究成果報告資料』、二〇一八、において「日本統治下台湾・朝鮮からの『留学生』に関する研究資料…学校別学生・生徒数」として統計的にまとめ、「旧制金川中学校の台湾・朝鮮留学生」『アジア教育』第11巻、アジア教育学会、二〇一七、「1920-30年代 日本人の

중심으로」『한국교육사학』 제43권 제1호、韓国教育史学会、二〇二一、で個別にも研究を始めており、後者では朝鮮「留学生」が多く在籍した学校として、東京の大成中学校、名教中学校、順天中学校、錦城中学校、京都の聖峯中学校、両洋中学校、広島の高陵中学校、興文中学校、山陽中学校、さらに実業学校として東京商工学校、大阪の興国商業学校に加えて愛知の東海商業学校が例示されている。

- (2) 文部省『産業教育七十年史』雇用問題研究会、一九五六、一四五頁。なお、一八九九年の商業学校規程によって、修業年限三年、入学資格年齢一四歳以上学力高等小学校卒業以上の甲種(二年の予科を認めている)と、修業年限三年以内、入学資格年齢一二歳以上学力尋常小学校卒業以上の乙種が存在していた。一九二一年の改正により甲乙の差別的名称は廃止されたが、実質的には、その後も尋常小学校卒業から五年後に卒業するものと三年後に卒業するもので区別され得た。
- (3) 同右、一四五頁
- (4) 愛知県教育委員会『愛知県教育史』第四巻、愛知県教育委員会、一九七五、一八六、一八七頁の表より。
- (5) 商業教育八十周年記念誌編集委員会『商業教育八十周年記念誌』全国商業高等学校協会、一九六五、四五頁
- (6) 『名古屋新聞』一九二七年五月一四日五面
- (7) 菊池千尋氏所有の知学の戸籍による。以下戸籍事項については同じ。
- (8) 菊池知学「家庭における九郎伯父」菊池九郎先生建碑会編『菊池九郎先生小伝』菊池九郎先生建碑会、一九三五、一九三頁。ここで知学は、伯父は実子のように愛育してくれたとしながら、学生に対してどこまでも寛厚慈愛の親心をもって接していたとか、使用人に至るまでその人格を無視するような態度を見たことがなかったとか、一言にして言えば寛仁無私といったようなものが伯父の性格の要素であるなど、九郎への敬愛の念に満ちた思い出を綴っている。なお、父逝去の年月は戸籍の相続年月による。
- (9) 東興義塾高等学校への聞き取りによる。
- (10) 吉村欣治『名古屋YMCA六十年史』名古屋基督教青年会、一九六四、二二頁、及び千尋氏所有知学自身による履歴書。以下履歴事項の多くは履歴書によった。なお、「高等学部」の名称は履歴書のみとしたが、「高等普通学部」のことか。
- (11) 菊池九郎「終刊に際して」東興義塾塾友会『塾友』終刊記念号、東興義塾塾友会、一九一一、二頁
- (12) 同右
- (13) 前掲『菊池九郎先生小伝』三九頁
- (14) 菊池千尋氏の覚え書きによる。
- (15) 宣教九十年記念大会委員長日本基督教団総会議長小崎道雄名で一九四九年に知学に渡された表彰状に「受洗以来五十八年の長きに亘り」とあることから。
- (16) 日本キリスト教団名古屋中央教会『写真と年表でつづる15年史』日本キリスト教団名古屋中央教会、一九九四、六一頁。なお、前掲『名古屋YMCA六十年史』は一九〇一年

- としてゐるが、八月とまで明確に記されているこちらの年表に従った。
- (17) 菊池知学「その頃の名古屋中央教会」『日本基督教団名古屋中央教会』恩寵八十年 日本基督教団 名古屋中央教会八十年略史、日本基督教団名古屋中央教会、一九六〇、六四頁
- (18) 前掲『写真と年表でつづる115年史』六一頁
- (19) 前掲『名古屋YMCA六十年史』一九一二頁。名古屋英和学校もまた東奥義塾と同じく「敬神愛人」を建学の精神とするメソジスト系の学校である。以後の知学のYMCA活動に関する記述は主に同書による。
- (20) 同右、二二、二二頁
- (21) 中原賢次『基督者学生運動史』日本YMCA同盟出版部、一九六二、一八六頁。
- (22) 日本基督教青年会同盟『開拓者』第二六卷二二号、日本基督教青年会同盟、一九三一、一五頁
- (23) 前掲『基督者学生運動史』一八九頁
- (24) 日本基督教青年会同盟『開拓者』第三〇巻一〇号、日本基督教青年会同盟、一九三五、三五、三六頁。産業組合は、産業組合法による日本の協同組合で、後の農業組合等の母体であるが、農業恐慌からの回復のためこれを急速に拡大しようとする五ヶ年計画は卸売商など地方の商業者の反発を買い、当時反産運動が起こっていた。
- (25) 前掲『写真と年表でつづる115年史』六八、七〇頁
- (26) 同右、九四頁
- (27) 鈴木秀松「私と中央教会」『日本基督教団名古屋中央教会編』恩寵100年『日本基督教団名古屋中央教会』一九七九、二〇二頁。この頃の知学の役職名が幹事であることや、知学の娘静江と思われる人物（静枝と表記）が日曜学校の教員を務めていたことも記されている。
- (28) 菊池千尋氏への聞き取り及び千尋氏の覚え書きより。
- (29) 前掲『写真と年表でつづる115年史』一四三頁
- (30) 佐藤由美氏提供。このパンフレットにより知学が「講」の仕組みを使って資金を得ようとするほど資金繰りに苦労していたこともわかる。
- (31) 『名古屋新聞』一九二七年五月一四日五面の記事の題に「試験地獄」の文字があるのもその一例である。
- (32) その後の広告にも「新出来町」とあるが、愛知県知事官房統計係『大正十三年愛知県統計書』一九二六、にも「千種町」とあり、申請と広告上の所在地は違ったままであった。
- (33) 名古屋大学『人事興信録』データベース、第八版「昭和三（一九二八）年七月」の情報
<https://ahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who08-18184>
- (34) 前掲『名古屋YMCA六十年史』七四頁。知事・市長の記述も同じ。原口は一九三一年に他界し、一九三三年三月一〇日付の官報には、設立者名を「岡谷惣助外三名」に変更することを認可したとの告示が載せられた。岡谷惣助（清治郎）もまた財団法人名古屋基督教青年会拡張計画などに積極的に

関わった（前掲『名古屋YMCA六十年史』六七、六九、七四頁）財界人（岡谷鋼機設立者）であった。

- (35) 一九二五年二月二〇日付『名古屋新聞』七面には、「腐敗せる私立学校遂に当局に睨まる 新入生争奪の弊風一掃せん」との題で記事が載っており、池田学務課長の「各学校の争奪戦についてはなか／＼調査が困難であるがいろ／＼の方面から調査して見る心算であるが、いはゆる御馳走政略などはまだ公然とやつてゐるが、その外に、特別に或る学校へ訪問している／＼運動したり、こつそりという／＼なことをやるのがあると言ふことであるが、それは判り憎いかはり、弊害も大きいので、その方面の調査を嚴重にしたいと思つてゐる、むしろかういふ争奪戦は激しくなればなる程限りがないのだから私立学校側が自発的に何とか申し合はせて止める方法を採ればいいのだが」との言葉を載せている。野球に關しては、一九二七年二月二六日付『名古屋新聞』七面で、私立の商業学校が小学校に向けて被服や学用品を与えたり寄宿舎へ無料で入れたり学費を無料にしたりすることなどを「教育界の重大なる問題」としている。
- (36) 例えば、愛知県知事官房統計調査課『愛知県統計書』昭和二年、第二編、一九二九、によれば、一九二七年の入学者数／志願者数は、中京商業学校（昼間部）一六一／三八二、享栄商業学校一〇〇／一九四、東邦商業学校一七九／二三〇に對して東海商業学校は一〇／四〇であった。
- (37) 昭和三年版同統計書第二編、一九三〇、によれば、編入に

關する統計が見え始める一九二八年の第一学年入学者数…第二学年以上入学者数は、中京商業学校（昼間部）一七七・一七八、享栄商業学校五六・一〇、東邦商業学校二〇八・五九に對して東海商業学校は一五・四五であった。

- (38) この關係記事は、『名古屋新聞』一九三二年五月一七日夕刊二面、二〇日夕刊二面、『新愛知』同年五月一七日夕刊二面、一九日五面。さらに朝鮮でも『毎日申報』五月一九日七面で「卒業證書買賣喫む校長」と報道された。
- (39) 『新愛知』一九三二年四月一日四面、二日三三三
- (40) 前掲『平成26年度／平成29年度科学研究費助成事業（基礎研究（C））研究成果報告資料』
- (41) 一九〇八年一月に仁川で発刊され一九年二月から四二年二月の廃刊まで京城を本社とした日本語新聞。
- (42) 一九三三年の『京城日報』の広告では、「判任文官資格を得る」の部分が「官公立と同等の資格あり」になっている。また「広路町」は本文で述べたとおり八事周辺であるが「翠ヶ丘」は今のところ古い地図等にも発見できない。
- (43) 内務省警保局『社会運動の状況』一九三四、朴慶植編『在日朝鮮人關係資料集』第三卷、三・一書房、一九七六、五八頁
- (44) 一九三三年三月二三日付『東亜日報』二面
- (45) 一九〇六年九月に『漢城新報』と『大東新報』を統合して創刊された總督府の機関誌で、日本語新聞。
- (46) 同年三月二八日付『東亜日報』二面も、毎年東海商業学校

から朝鮮に来て学生募集をしているが、今年も募集を行うとしながら、同様の記事を載せている。

(47) 一九三三年四月五日付『東亜日報』二面

(48) 한국학중앙연구원 「한국사역대인물 종합정보 시스템」

<http://people.aks.ac.kr/index.aks>、なお任龍吉は翌年に名古屋で『東亜新聞』を発刊する。

(49) 内務省警保局保安課『特高月報』昭和八年一月分、一九三三、七二頁

(50) 국가편찬위원회 「한국사데이터베이스 한국근현대인물자료」

db.history.go.kr/item/label.do?levelId=im_107_00618

(51) 前掲「社会運動の状況」一九三四、前掲『在日朝鮮人関係資料集成』第三卷、八三頁

(52) 内務省警保局「社会運動の状況」一九三〇、朴慶植編『在日朝鮮人関係資料集成』第二卷、三・一書房、一九七五、一八二頁。内務省警保局「社会運動の状況」一九三一、同書一三四頁、も、京都両洋中学における示威運動や同盟休校についての報告を載せている。

(中京大学文学部客員教授)